

SAIL '0' 通信 NO. 70

大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2022年1月24日発行

会報目次

1. ボランティアレポート、他
 - ① 2021年度のボランティアイベント
 - ② ～2022年再び特別な年明け～菱垣廻船保存プロジェクト
2. 旅行記・イベント参加報告
 - ① 咸臨丸160プロジェクト「海わたる風～KANRIN—MARU」参加報告
 - ② 灘の生一本、下り酒再現航海記
 - ③ サザンクロス航海 徳島⇒長崎
 - ④ クルーズ船乗船記
 - ⑤ 生田神社初詣
3. その他、情報
 - ① 令和4年度大阪帆船と国際交流の会総会のご案内
 - ② 令和4年度役員募集

記事本文

1. ボランティアレポート、他
 - ① 2021年度のボランティアイベント

令和3年度も新型コロナウイルスの影響で、①外国旅客船入港歓迎活動、②大阪城公園お花見会③天保山まつり参加活動④大阪市民ボランティア活動が中止や延期になる中、①咸臨丸160プロジェクト「海わたる風～KANRIN—MARU」支援活動、②大阪マリーナメルボルンハウス年末懇親会はコロナ対策を考慮しながら行うことができました。

今年度こそ新型コロナウイルスの鎮静化を祈念して、第10回大阪マラソンボランティア活動を始めに、徐々に活動が行われるよう願っています。

- ② ～2022年再び特別な年明け～菱垣廻船保存プロジェクト

ラジオ関西/ラジピ公開記事より引用

歴史に学ぶ、まちづくり。温故知新をキーワードに市民ボランティアが活動している。一般的に千石船と呼ばれる江戸時代の貨物船の中に上方から江戸へ多くの生活物資を運んでいた菱垣廻船がある。今の大阪市港区天保山から大阪湾にそそぐ安治川から、出船千隻入船千隻と言われた当時、海運を担っていた菱垣廻船は日本の経済を支えていたと言っても過言ではない。

その天保山地区で2013年秋、一般社団法人 港まちづくり協議会大阪の下、第6回ええやん！天保山まつりでのお披露目に向け三分の一縮尺の菱垣廻船「浪華丸」(山車:全長約10m 幅約3m 帆柱約9m)を再現し、地元の商店街や公道をねり歩く菱垣廻船のまちなかパレードが成功した。(写真①②③)このあと毎年続いたが、菱垣廻船「浪華丸(山車)」を力強く曳く地元の中学生たちの姿は、2019年11月で止まってしまった。(写真④)そして翌年、新型コロナウイルス感染拡大の影

響で天保山まつりは中止となった。横浜港に停泊する豪華クルーズ客船がテレビ画面に映し出され、新型コロナウイルスの感染を報じ、未曾有の恐怖を多くの人を感じた2020年。そして今年にはコロナ禍が続くなか、スエズ運河でコンテナ船が座礁。海上輸送が寸断された出来事が記憶に新しい。防げたかもしれない出来事と防ぎようがない出来事。船を題材に港のまちづくりで活動をしている者として、とても心が痛んだ。2年間の活動停止をした今、ようやく終息が見え始めたが、また新たな変異株が報告された。来年の再開を楽しみにしつつ、どこかで再び緊急事態宣言がされないか。また市民ボランティアたちが戻ってきてくれるだろうかの不安がつきまとう。テレワークやリモート、ネット通販など、デジタルで新たな生活様式が加わったが、半導体不足でモノができず。通販の急拡大により、物流も大きく変化している令和の今、和船の歴史(菱垣廻船、樽廻船、北前船など)から流通やモノづくりなどのヒントが見えてくるのではないかと。一般的に千石船と呼ばれる船は約150トン積の貨物船だ。往時は、海から見える陸の景色で、また夜は星や太陽で自分の船の位置を知る。航海の大変さは想像に難くない。一方GPS(全地球測位システム)があたりまえの今、電気は生命線だ。万が一の場合を考えると天体の動きを示す天則歴も知識として理解しておく必要がある。さて菱垣廻船は、江戸から明治初期まで活躍していた。その賑やかな様子が錦絵「菱垣新綿番船川口出帆之図」にも描かれている。この頃が水都大阪の始まりだったのかも知れない。一方、和船の建造技術に関しても注目すべき点が多い。船大工は、後に家具職人や宮大工(神社・寺)として活躍しているなど多くのエッセンスを秘めている。

そんな菱垣廻船が1999年大阪市政100周年を記念して原寸大で復元建造された。その方法は船クギ1本から木組みに至るまで完全に復元された唯一無二の和船だ。同年夏、大阪湾で帆走実験が行われ貴重なデータも収集された。現在は大阪市住之江区南港のガラスのドーム内に眠っている。(写真⑤)

冒頭に紹介した三分の一菱垣廻船は、原寸大建造まえの試作船を活用し、先人の英知に思いを馳せている。日本の経済を担っていた菱垣廻船は日本の文化。大阪・関西万博の会場に近いガラスドームの中にある菱垣廻船を世界の人に自慢したい。 2022年1月7日 高見昌弘さん

2. 旅行記・イベント参加報告

① 咸臨丸160プロジェクト「海わたる風～KANRIN—MARU」参加報告

令和3年7月10日(日)05時に徳島港ケンチョピアを離岸したセイルボート『サザンクロス』は、06時、視程200mの濃霧の中、四国徳島県吉野川の沖合をGPS(船位測定機)とレーダーを頼りにゆっくりと北に向かって進んでいました。「小鳴門水道が濃霧ならば通峡は危険だ。霧が晴れるまで撫養港の入口で待つしかないか。本島到着が遅れるなあ。」との思い。ところが、撫養港口灯標に近づいた途端に、嘘のように霧が消え、小鳴門水道の奥にある小鳴門大橋まで視界が開けた。「よかった！本島到着が遅れずにすむ。」。15時、無事に本島笠島漁港の浮棧橋に係留できた。(写真①)到着を待っていてくれた島民方々の歓迎を受けて、『咸臨丸～海わたる風』事業の開始を祝うセレモニーが行われました。徳島から長崎までの第1レグは、7月10日徳島出港から本島、今治、室津(上関)、新門司、博多、平戸を寄港して7月16日長崎入港までの7日間の航海。(写真②)平戸港では浮棧橋に親切な方がいて係留時に綱を取ってくれた。近くに店があるから寄ってくださいとおっしゃっていたので、夕食がてらにその店に行った。(写真③)店の名前は、ヨット乗りの間では有名な『パンチョ』。生演奏に、テキーラ入りビール、当店自慢のハンバーグは売り切れで頂けなかったけれど楽しい時を過ごしました。長崎港では長崎出島ハーバーに係留しました。ハーバーはショッピングモール長崎出島ワープに隣接し、食事も買い物も大変便利なところ。お嬢さんが運ぶ日替わりモーニングが乗員の毎日の日課になりました。係留している『サザンクロス』を眺めながらの食事は格別です。(写真④)

第2レグは、7月19日(日)長崎出港、対馬厳原、宇久島、中通島、天草牛深、宇土半島三角を寄港して7月26日(月)長崎入港を計画していましたが、アクシデント発生で計画の変更を余儀なくされました。21日15時、五島列島の最北の宇久島平港に入港時に、フェリーに続いて入港する

ためにエンジンをニュートラル(中立)にしました。再びレバーを前進にしましたが艇は動かない。後進にしても動かない。「クラッチのワイヤーが切れたのか。」と思い、エンジンルームを開けると、プロペラシャフトがカップリングから抜けている。「こんなことってあるのか。困った。曳航してもらえない。」という思いで、係留予定の宇久島海の駅の管理者である漁協に連絡して曳航をお願いする。投錨することなく曳航できたことは幸運でした。浮棧橋に係留後、プロペラの状況を調べるために潜って見ると、漁網が絡みついているプロペラが見えない。絡んでいるロープを何本も切り漁網を揚げる。漁網は一抱えもあった。翌22日、潜水士を頼みプロペラシャフトをカップリングに叩き入れて、カップリングを締め付けて、ようやく前後進できるようになった。23日06時に宇久島を出港した。が、防波堤をかわし、セイルを上げてしばらくすると、再びシャフトが抜けた。やはり、カップリングを締めるだけでなく、カップリングとシャフトを繋ぐ貫通ボルトが必要であった。中通島への計画を変更し長崎港に帆走で向かうことにしました。ところが、昼近くになって、風が弱くなり、急遽、長崎サンセットマリーナに曳航を要請し、17時にマリーナに入港し、上架しました。翌日24日、シャフトを挿入、カップリングとシャフトを貫通ボルトで連結し、修理完了。試運転の結果、船体の振動がなかったのでシャフトの変形は少なく一安心。日程的に八代海への航海を断念し25日出島ハーバーに係留しました。

第3レグは、奄美大島、吐噶喇(トカラ)列島を巡り四国沖を通って徳島に帰港する計画でしたが、台風の接近やコロナによる入島不可で第2レグで断念した三角港、八代海、牛深港を訪れ、野間池港、指宿港を経て種子島に寄港する計画に変更して、7月31日06時に思い出深い出島ハーバーを出港しました。8月3日は薩摩半島を回り指宿港に入港。半島の南端にある開聞岳は天候に恵まれて本当に美しい風景でした。(写真⑥)台風9号や10号の影響で荒天が予想されたので種子島行を断念し、早い時期に瀬戸内海に逃げ込むことにして、4日06時、指宿港を出港しました。平穏な錦江湾を南下して佐多岬に差し掛かると、前方に白波が沸き立っている。ほんの短い間だが、チャートテーブルに置いてあったノート型パソコンをはじめ艇内のほとんどの物が散乱するほどの揺れ。潮岬沖でも三角波は立つが、こんな揺れは今までに経験したことがない。黒潮が佐多岬に近づき浅くなった水深のために湧き上がったようだ。台風9号の動きに注意しながら豊後水道を航行、夜航海の後、大分国東の武蔵海の駅に入港。気象情報では9日が大荒れの予想。小豆島琴塚港に避難場所を確保でき、6日早朝武蔵を出港、大三島、直島に寄港し、8日09時に琴塚港に係留。(写真⑦)小豆島の北側には台風避難の船舶が続々と錨泊しはじめた。台風9号は9日5時に広島県呉市に再上陸し9時には温帯低気圧になったが、9日朝から西風が強くなり、防波堤を超える波もある。波しぶきが舞い停泊しているはずの船影も見えない。翌10日、前日の時化が嘘のように穏やかな海面に変わる。07時琴塚港を出港し津名港に寄港し11日15時に徳島ケンチョピアに係留しました。一か月の航海。計画変更の連続でしたが、艇は無傷とは言えないけれど、乗員に怪我はなく航海を終えることが出来ました。 中路さん

② 灘の生一本、下り酒再現航海記

2020年6月に『伊丹諸白』と『灘の生一本』下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷が日本遺産に認定されました。その重要な構成要素のひとつである「樽廻船と下り酒」を再現するために神戸から帆船に酒樽を積んで東京まで運ぶ計画が立てられました。まわりまわって、その帆船に『サザンクロス』をという打診がその年の秋にあり、昔日の船乗りの心情を感じる航海をしたいと思っている私としては二つ返事で快諾しました。2017年の菱垣廻船風待ち港航海に続く航海でもありません。新型コロナの影響で再三延期されましたが、昨年11月にいよいよ実行に移されました。私のクルーザーの師匠との50年ぶりのダブルハンドの航海になりました。

11月23日09時30分に『サザンクロス』は神戸港中ふ頭西岸壁に係留し、出発式の後、神戸市長と西宮市長から酒樽が手渡されました。パウデッキに酒樽5樽を固縛し、高見さんはじめ多くの方々の見送りを受けて、11時に岸壁を離れました。(写真⑧)荒天が予想されていたので神戸港内を航行中に空樽4樽をキャビンに移し、酒入り1樽はコクピットに置いておきましたが、出港後思

いのほか動揺が激しく、急遽津名港の中谷さんに連絡して係留の許可をいただき、津名港に入港し、酒入り1樽をキャビンに移しました。次港は風待ち港のすさみ港。早朝出港。荒天は続いています。追風での快走です。紀伊水道航行中に夜が明け、白浜千畳敷三段壁、市江崎を通過。弁財船航海以来の4年ぶりの懐かしい風景です。25日08時すさみ港を出港。風は少しは弱くなりましたが、高い波は残っています。風波を避けて潮岬を回ってからは紀伊半島に沿って北上。紀伊半島に沈む夕日を眺めながら熊野灘を大王崎を目指し航行。大王崎に接近し針路を伊豆半島沖の神子元島に向けます。本船航路を横断することは大変な労力をします。特に、夜間は距離感がわからないので大変です。伊勢湾から潮岬に向かう南行きの船、潮岬から伊勢湾に向かう北向きの船が途切れなく走っていました。感じとして、信号のない片側3車線の道路を端から端まで渡る際に、流れに沿って1車線づつ車線を変え、中央で向きを変え、また1車線づつ車線を変えるようなものです。進むべき方向は後回しにして、南に走り、北に走りして本船航路を横断します。若狭湾から関ヶ原を通り伊勢湾を抜けてくる風は冷たく強い。遠州灘が難所といわれる所以です。夜通しその遠州灘を航行し、夜明け前に御前崎を通過。駿河湾の向こうに富士山が遠望できました。富士山でできた雲は100キロ以上離れた房総半島まで続きます。神子元島を回り伊豆半島に沿って北に針路を向ける。(写真②)神子元島の近傍は、九州大隅半島佐多岬と同じく水深が浅くなり波が高くなる。揺れが激しい。向かい風ならば西伊豆の妻良港で風待ちするところです。郷里真鶴に入港し風待ち。風待ちというよりは、暖かい酒と美味しい魚を胃袋に入れました。翌日、相模湾を航行し三浦半島を回る。(写真③)この時刻、この場所からの富士山はいただきに雪を積もらせ朝日に輝き崇高に見えます。観音崎を通過し東京湾に入りました。観音崎灯台は『喜びも悲しみも幾年月』の映画で灯台守夫婦の最初の勤務地に設定されています。ちなみにラストシーンは小樽港日和山灯台(2018年7月に登りました。)です。

28日11時30分夢の島マリーナを出港、酒樽の陸揚げ場所である竹芝浮棧橋に向かいました。満船飾の『サザンクロス』は13時15分に竹芝浮棧橋に着棧。Sail”O”の桜井さんや多くの関係者、都民の皆さんの出迎えを受けて、酒樽5樽を陸揚げ、下り酒樽廻船航海を無事に成し遂げました。

中路さん

③ サザンクロス航海 徳島⇒長崎

私が船に関わるようになったのは前厄だった2003年の7月に帆船あこがれに乗ったことにはじまります、それはちょっと変わったことをすると厄払いになると聞いたから少し長い航海を体験してみようと思い、先ずはちよいと下見のつもりで乗ったのが2泊3日で瀬戸内をプカプカと言うコースだったと思います。

その後秋のお彼岸に1週間のコースで八丈島に行ってその後ボランティアをすることになって色々あって現在に至り、サザンクロスにも関わらせていただくようになりました。

私のサザンクロスのイメージはまさに快樂と言うところです、いままで天候に恵まれ、時化るところか雨もほとんど経験もなく、港に着けば酒池肉林とまでは無いがご当地グルメの酒肴、一昨年の弁才船、昨年の海わたる風咸臨丸とたくさんいい思い出ができました。

記憶に新しい海わたる～では、7月9日徳島夜の海鮮に始まり翌朝出港からの本島～今治～上関～門司～福岡小戸～平戸～長崎入港の16日そして帰阪の18日まで連日美味しく過ごさせて頂きました、さて今年もどれくらい仕事をサボって、何が食えるのか楽しみです。

でかちよ～さん

④ クルーズ船乗船記

国内のコロナ状況が落ちついている師走のこの時期、クルーズ船に乗船してきました。

乗船2週間前PCR検査キットがきて、それを返送します。結果は「低レベル」という陰性の報告、更に乗船前に再度PCR検査。勿論、ワクチン二回接種している方の条件です。船内は食事以外はずっとマスク着用です。

乗船した船は日本船では一番大きい「飛鳥II」です。今回は神戸から横浜へ2泊3日45時間と

いうゆったりコースです。飛鳥クラスでは20ノット出ますので20時間で着いてしまいます。

船の定員は約900人弱、但し今回は350人の乗客でした。(募集は400人)これに対してクルーは400人、一対一の対応です。ここで部署ついて船長等に日本人が数名と三交代制の外人運行クルー。機関には運行機関と船の設備メンテナンス。ギャレー等厨房、レストランサービス等、ショー等エンターテイメント、お部屋のキーパー、タオル等洗濯、売店等裏方の方々がいます。

一番見ない、気がつかないが一番大事な部署があります。それは水、食糧、資材、勿論燃料等を調達、管理する部署です。こんな裏方が400人もいます。

今回はゆっくり太平洋を東へ進み、朝駿河湾で富士山を見て夕刻相模湾へ。ここで低気圧の通り過ぎるのを待つ為、熱海沖をぐるぐると回っていました。

この時船の中はクリスマス🎄です。翌日朝三浦半島から東京湾に入り、横浜大榎橋にお昼過ぎに到着。あっという間のひと時でした。

さて、この飛鳥来年前半のオセアニア、世界一周コースを中止。日本近海のコースに変更らしいです。海外の船も次々とキャンセルになっており、夏以降の募集しかありません。

早くコロナが落ち着き、大阪港にクルーズ船が入港することを願っています。 はっさん

⑤ 生田神社初詣

生田神社に初詣に参拝しました。お天気も良くそのまま港まで足をのばしました。なんと、日本丸が停泊しているのに遭遇しました。(写真)帆船と言えはSail`Oです。みなさま如何お過ごしですか?本年もよろしくお願ひいたします。 篠原真知子さん

3. その他、情報

① 令和4年度総会について下記の通り、開催のご案内をいたします。

- 開催日時：2月19日(土)10時から12時まで
- 開催場所：大阪ボランティア協会会議室
(大阪府中央区谷町2丁目2-20大手前類第1ビル2階)
- 出欠：同封の葉書にて出欠を2月12日(土)までにご返信ください。
*状況により開催の中止をお知らせすることも考えられます。
その際は、総会資料を送付し、ご意見をお伺いします。

② 令和4年度役員募集

- 令和3年度の役員は以下のとおりです。(敬称略)
代表：中路、副代表：高見、事業担当：遠藤、谷口、田中(孝)、吉川、中津留、土井
広報担当：北村、辻村、藤本、井堀、会計担当：古江、岩村、会計監査：大西
- 任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

編集後記：

中路さんが平戸のレストランで飲まれたというテキーラ入りビールはスペイン語でサブマリーノ(=サブマリン=潜水艦)という名の付いたカクテルです。ビールジョッキの中にテキーラ入りの小さなグラスが逆さまに置かれており飲むたびにテキーラが混ざる仕掛けです。カクテルまで船に関するものですね。今の寒い時期は樽廻船に想いを馳せながら熱燗で暖を取り、寛ぎたいです。(北村)
九州4年目に突入です。同じ佐賀県内ですが、少しだけ異動しました。佐賀でもコロナの勢いが止まりません。皆さんもくれぐれもご自愛ください。編集している直後に九州で大きな地震がありました。幸い私のいる鳥栖は震度3でした。トンガの噴火など世界的にも大変な状況です。今年が皆様に取りまして平和な年でありますように・・・(辻村)